

市の考えを問う 一般質問

6月8日・12日・13日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



児童の通学風景

Q 児童の交通安全対策について

A 一層の啓発活動を推進する

金泉婦貴子 議員

質問一 ア 通学路の形状や登下校時間帯の交通量を勘案し、事故が起こりそうな箇所への把握について。

イ 通学路の見直しや保護者への周知について。

ウ 児童生徒に対しての交通安全教育について。

二 市としての対策について。

答弁一 ア（教育委員長） 小中学校の通学路に関しては、学校安全計画に基づき定期的に安全点検を実施している。また、教職員等による安全確認も実施している。亀岡市の事故を受け、通学路の安全点検を実施している。今後、対応策を検討する。

イ 小中学校において再度安全点検を実施した結果、通学路の変更は行わないことになった。保護者会等で通学路の危険箇所や安全な歩行の周知を行っている。さらなる

徹底を小中学校に働きかける。

ウ 発達段階に応じて危険予測能力を高める指導を確実に実施する。

二（市長） 交通安全団体と連携し、一層の啓発活動を推進する。また、通学路の安全対策も盛り込んだ総合的な道路計画を策定し、交通環境の整備に努める。

◎**その他の質問** 幼保一体 総合子ども園について

質問一 市の農業の現状と今後の市の目指す農業について。

二 任期付職員の現状と今後の目標について。

三 特産品の創出やブランド構築による6次産業化について。

四 ふるさと景観や農を生かした観光化について。

五 水土里の交流圏構想との連携性について。

六 地の利を生かした集客性のある観光地にするための取り組みについて。

答弁一（市長） 現状は農産物直売所を中心とした都市近郊型農業が定着。今後は、農商工連携等により加工・販売につなげていく。

二 現在、農業交流センターで、地域農業の活性化を担っている。今後、有機を中心とした環境にやさしい、安心安全な農業や人を農地に呼び込む仕組み作りを進める。

三 6次産業化が進むよう市の支援や関わり方を検討する。

四 農を通じたふるさとづくりを観光に結びつけ、経済的効果を生み出す仕組みを作っていく。

五 活力ある農業の創出によって賑わいと憩いの空間づくりを行う。

六 広域観光化を積極的に進める。

◎**その他の質問** 地域支え合い協議会について

A Q

ふるさと景観・農村風景の活用 活力ある農業を創出する

内野 嘉広 議員



高倉の自然